

食のリスクコミュニケーション失敗の主因はリスク認知バイアスか Is Main Failure Cause of Food Risk Communication the Risk Perception Bias?

○山崎毅*, 大瀧直子*, 桑原正貴**

Takeshi Yamasaki, Naoko Ohtaki-Shimauchi, Masayoshi Kuwahara

Abstract. Typical example of the failure of risk communication is on “food additive”. We presume that the main failure cause of risk communication from food safety experts to consumers could be the risk perception bias. In this study, we performed the internet questionnaire survey to 100 female consumers (age 30’s to 40’s) who have health concerns to food additive, and analyze the relevancy of risk perception bias to such concerns by questioning the reason for the lack of understanding food additive safety. As a result, we found the strong relevancy of risk perception bias to the cause of the lack of understanding the risk/safety of food additive, which should be expected for good opportunity to develop the new method of smart risk communication.

Key Words: risk perception bias, food safety, food additive, smart risk communication

1. はじめに

食品安全の専門家が人への健康リスクが十分小さく安全と評価しているハザードにもかかわらず、一般消費者がリスクを過大に知覚／認識してリスク認知バイアスを生み出し、社会に大きな影響を与えている。昨年の本学会において、筆者はリスク認知バイアスの原因をターゲットとした食のリスクコミュニケーション（リスコミ）手法が重要と考え、リスク認知バイアスの社会心理学的原因を具体的に4つあげてそのリスコミ手法のあり方を提案した（山崎, 2017）：①二者択一の原理（中谷内, 2006）、②Slovic のリスクイメージ過大因子／未知性因子など（岡本, 1992）、③リスク情報発信者への不信感、④リスクコミュニケーションのパラドックス（関谷, 2011）

そこで本研究では、インターネット調査により食品添加物の健康リスクに懸念をもっている消費者を抽出し、なぜ食品添加物のリスクの大小や安全性を理解できないのか、その理由をリスク認知バイアスに関連したものではないかと推測して設

問し、解析を実施した。

2. 方法

インターネットアンケート調査は、楽天インサイト(株)の日本人モニターから、最低週1回は料理をする／食品ラベルを確認する方で「食品添加物は健康によくないので、添加物の入った加工食品はできるだけ使いたくない」という設問に、「たしかにそう思う」または「まあまあそう思う」と回答した女性100名をランダム抽出し（30歳代39名／40歳代61名）、設問に対する回答を得た。設問は、食品添加物のリスク／安全性を理解できない理由としてリスク認知バイアスをいくつかあげ、回答者に自由に選択させた。

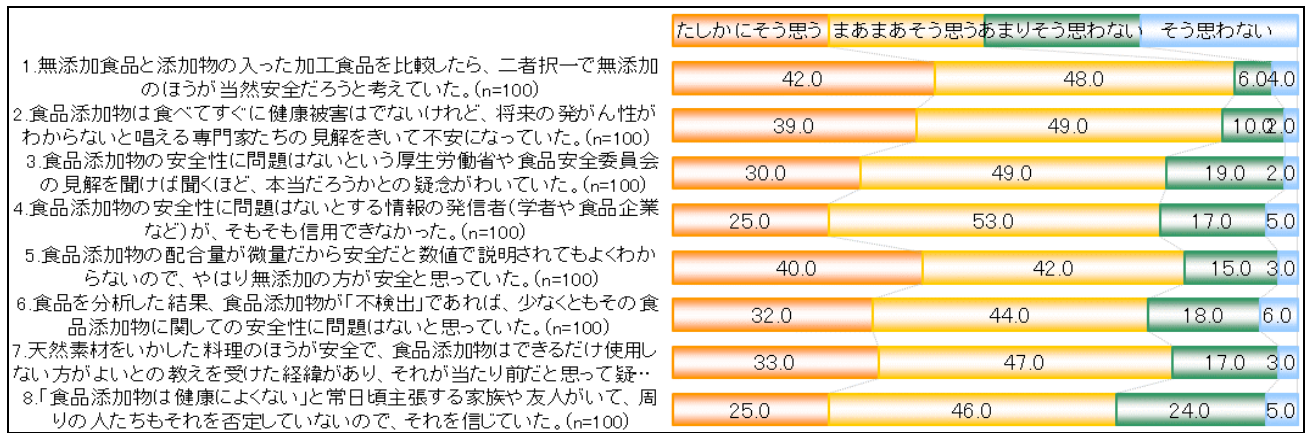
3. 結果

食品添加物が健康によくないというリスク認知にいたった理由として、社会心理学的なリスク認知バイアスが原因ではないかとの設問を8つ投げかけて、「たしかにそう思う」、「まあまあそう思う」、

* 特定非営利活動法人食の安全と安心を科学する会（NPO Science of Food Safety and Security, Japan）

** 東京大学大学院農学生命科学研究科（Graduate School of Agricultural and Life Sciences, University of Tokyo）

Figure 1 リスク認知バイアスにいたった理由の自己分析回答結果



「あまりそう思わない」「そう思わない」という4つの選択肢を選んでもらった自己分析の回答結果を Figure 1 に示した。その結果、食品添加物のリスクを過大視してしまうリスク認知バイアスの原因についての8つの設問に対して、「たしかにそう思う」または「まあまあそう思う」を選択した回答者が70%~90%に達していた：

- ① 無添加食品と添加物の入った加工食品を比較したら、二者択一で無添加のほうが当然安全だろうと考えていた：90%
- ② 食品添加物は食べてすぐに健康被害はでないけれど、将来の発がん性がわからないと唱える専門家たちの見解をきいて不安になっていた：88%
- ③ 食品添加物の安全性に問題はないという厚生労働省や食品安全委員会の見解を聞けば聞くほど、本当だろうかとの疑念がわいていた：79%
- ④ 食品添加物の安全性に問題はないとする情報の発信者(学者や食品企業など)が、そもそも信用できなかった：78%
- ⑤ 食品添加物の配合量が微量だから安全だと数値で説明されてもよくわからないので、やはり無添加の方が安全と思っていた：82%
- ⑥ 食品を分析した結果、食品添加物が「不検出」であれば、少なくともその食品添加物に関する安全性に問題はないと思っていた：76%
- ⑦ 天然素材をいかした料理のほうが安全で、食品添加物はできるだけ使用しない方がよいとの教えを受けた経緯があり、それが当たり前だと思って疑わなかった：80%

- ⑧ 「食品添加物は健康によくない」と常日頃主張する家族や友人がいて、周りの人たちもそれを否定していないので、それを信じていた：71%

4. 考察

本研究の調査結果でわかったことは、食品添加物の健康リスクを過大に認識した理由として、これら社会心理学的に知られる8つのリスク認知バイアス項目が当たっていると7割以上の回答者(30歳~40歳代女性)が肯定したことだ。

このリスク認知バイアスの発生原因8項目を参考文献よりあげると以下の通りだ：①二者択一の原理(中谷内, 2006)、②Slovicのリスクイメージ過大因子/未知性因子など(岡本, 1992)、③リスクコミュニケーションのパラドックス(関谷, 2011)、④リスク情報発信者への不信感(広田ら, 2006)、⑤ニューメラシーの低さ(伊川, 2017)、⑥単位のワナ；検出限界の違いによる「不検出」への誤認(半谷, 2015)、⑦アンカリング効果・係留バイアス(西澤, 2017)、⑧内集団バイアス(中谷内, 2008)、みんなの正しさ(高田明典, 2015)

筆者は昨年の本学会にて、リスク認知バイアスの原因をターゲットとした食のリスクコミ手法を提案し、上述の①から④項目のリスク認知バイアスを逆手に取ったリスクコミ手法開発の可能性を考察した(山崎, 2017)。また、筆者らが中心に進めている本学会の「食の安全・安心に係るリスクコミュニケーション研究・タスクグループ」においても、食品添加物の健康リスクに対する「確証バイアス」をターゲットとしたスマート・リスクコミの開発と効果検証について発表した(山崎ら, 2018)

インターネットでの無機的な情報伝達に限界はあるものの、相当数の回答者で確認バイアスの補正が認められたことから、リスク認知バイアスをターゲットとしたリスコミ手法の有効性が示唆された。

今回のインターネット消費者アンケート調査において、食品添加物のリスク／安全性について消費者が理解できない原因として「リスク認知バイアス」が強く疑われる傾向が認められたことから、今後のスマート・リスコミ手法開発のきっかけになるものと期待された。

参考文献

- 山崎毅 (2017) リスク認知バイアスを逆手にとったリスコミ, 日本リスク研究学会第 30 回年次大会講演論文集, Vol.30.
- 中谷内一也 (2006) 『リスクのモノサシ』, NHK ブックス
- 岡本浩一 (1992) 『リスク心理学入門』, サイエンス社
- 関谷直也 (2011) 『「災害」の社会心理』, ワニ文庫
- 広田すみれ, 増田真也, 坂上貴之 (2006) 『心理学が描くリスクの世界』 慶應義塾大学出版会刊
- 伊川美保 (2017) リスクの合理的判断に関わる個人要因: リスクリテラシー、ニューメラシー、批判的思考, nposfss.com/data/risc2017_01_ikawa.pdf
- 半谷輝己 (2015) 『それで寿命は何秒縮む?』すばる舎刊, p148
- 西澤真理子 (2017) 『「やばいこと」を伝える技術』, 毎日新聞出版刊, p77-p78
- 中谷内一也 (2008) 『安全。でも安心できない・・・信頼をめぐる心理学』ちくま新書刊, p140
- 高田明典 (2015) 『正しさとは何か』夏目書房新社, p229
- 山崎毅, 大瀧直子, 富岡伸一, 広田鉄磨, 山口治子 (2018) リスク認知バイアスをターゲットとした食のリスクコミュニケーション手法の開発ならびに効果検証, 日本リスク研究学会第 31 回年次大会講演論文集, Vol.31